



年 組 名前

道新ワークシート

新ひだか町の畜産農家、Aさんが育てる牛たち。
黒毛和種の生産が道内でも増えている
＝2024年10月8日（中島聡一郎撮影）



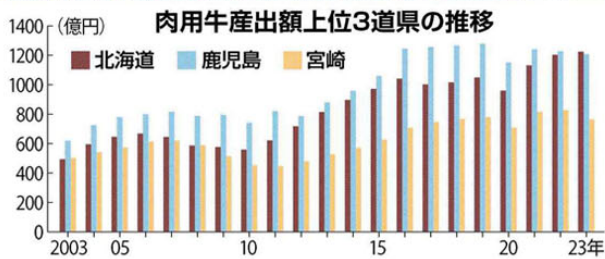
道産肉牛 産出額 1位

農林水産省がまとめた2023年の農業産出額によると、北海道の肉用牛産出額は前年比21億円増の1224億円となり、20億円減の1208億円だった鹿児島県を抜いて初めて全国1位になった。鹿児島県で多く生産される黒毛和種の価格低下に加え、飼料代高騰などで酪農経営が厳しさを増す北海道で乳牛のホルスタインに肉牛を産ませるケースが増えたことが背景にある。

農業産出額は各都道府県の品目ごとの生産状況や市場価格の動向などが読み取れる統計で、生産量に農家からの出荷時の価格をかけて算出する。鹿児島県の肉用牛飼養頭数は30万頭台で推移。50万頭台の北海道より少ないが、価格の高い黒毛和種の割合は北海道が3割程度なのに対して9割以上を占め、産出額は統計を取り始めた1960年以降、63年連続でトップを維持していた。

23年1224億円 鹿児島抜く

交配や飼養管理向上 生乳減産受け収入多角化



日高管内新ひだか町で肉牛を生産販売するAさん(67)は「北海道は肉用牛生産の歴史は浅いが、交配や飼養管理などの生産技術が急速にレベルアップしている」と指摘した上で、「輸入飼料が高騰する中、道内は牧草地や農地が広大で、いろんなバリエーションの自給飼料を確保でき、品質の良い牛の生産につながっている」と説明。23年の産出額が1位になったことで、今後、道産肉用牛への注目度がさらに高まることを期待する。

北海道の23年の農業産出額(全品目)は1兆3478億円と全国首位。肉用牛以外で北海道が1位だった品目は生乳、タマネギ、ジャガイモなど18品目あった。(徳永仁)

振興機構(東京)によると、21年度の全市場平均で1頭約74万円だった黒毛和種の子牛の価格は、22年度は約64万円、23年度は約55万円となった。これにより、鹿児島県の産出額が低迷した。

順位変動は北海道の酪農経営の変化も影響している。道内は黒毛和種よりも価格の安いホルスタインの雄など肉用の乳牛の飼養頭数が多いが、近年は離農や猛暑、飼料価格の高騰などから、生乳の減産傾向が続く。このため酪農家が乳牛に黒毛和種の受精卵を種付けし、産まれた子牛を販売して酪農経営の収入源にするケースが増えている。

農水省によると、23年2月1日時点の北海道の肉用牛飼養頭数は56万6400頭と5年前の18年同期比8%増だったが、黒毛和種は20万2900頭と同13%増えた。



年 組 名前

道新でワークシート

- ① 北海道の肉用牛産出額が鹿児島県を抜いて初めて全国1位になった。
記事を読み、その背景を、鹿児島県の産出額が低迷した理由と北海道の酪農経営の
変化の面から説明しなさい。

- ② 品質の良い牛の生産につながっている「北海道の強み」とは何か、記事から読み取り
なさい。